



## 2025年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年9月13日

上場会社名 株式会社coly 上場取引所 東  
コード番号 4175 URL https://colyinc.com  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 中島 杏奈  
問合せ先責任者（役職名） 執行役員管理本部長（氏名） 村上 寛奈（TEL）03(3505)0333  
半期報告書提出予定日 2024年9月13日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年1月期第2四半期（中間期）の業績（2024年2月1日～2024年7月31日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年1月期中間期	2,736	34.4	△670	—	△661	—	△687	—
2024年1月期中間期	2,036	△16.9	△685	—	△684	—	△685	—
	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
	円	銭	円	銭				
2025年1月期中間期	△124.	90	—	—				
2024年1月期中間期	△124.	65	—	—				

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年1月期中間期	5,836	5,102	87.4
2024年1月期	6,529	5,767	88.3

（参考）自己資本 2025年1月期中間期 5,102百万円 2024年1月期 5,767百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2024年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2025年1月期	—	0.00	—	—	—	—
2025年1月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年1月期の業績予想（2024年2月1日～2025年1月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	6,500	28.3	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2025年1月期の業績予想については、売上高のみを通期業績予想として開示しております。詳細は添付資料3ページ「1. 当中間期決算に関する定性情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年1月期中間期	5,502,900株	2024年1月期	5,502,900株
2025年1月期中間期	80株	2024年1月期	80株
2025年1月期中間期	5,502,820株	2024年1月期中間期	5,502,820株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の成果や業績等は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、添付書類3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2024年9月25日（水）に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。当日使用する決算補足説明資料については、2024年9月13日（金）に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
中間会計期間	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当中間期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する中、各種政策が奏功し緩やかな回復が続きました。一方で、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響等、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクは継続していることに加えて、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社が主に事業を展開する日本のモバイルオンラインゲーム市場は、2012年より市場が拡大し2023年には1兆1,886億円となり、成長は鈍化傾向にあるものの(注)、安定した市場規模を維持しております。しかし、海外ディベロッパーのモバイルオンラインゲームをはじめとした高品質な商品の台頭や、開発の長期化や開発費の高騰等、市場環境は厳しさを増しています。一方で、2024年のキャラクタービジネスの推定市場規模については前年を上回る見込みであり、底堅く推移しました。このような市場環境を受け、当社ではゲーム・メディア(グッズ販売・イベント開催等のゲーム外展開を指す)双方からIPを盛り上げ、末永くユーザー様に楽しんでいただけるIP運営を目指しました。

モバイルオンラインゲーム事業については、以前より開発を進めておりましたオリジナルIPの新作タイトル『ブレイクマイケース』を2024年5月9日にリリースいたしました。同タイトルは、当社内最速での売上・ユーザー数の立ち上がりを実現し、その影響でモバイルオンラインゲーム事業の売上高は前年同期を上回りました。現在、ユーザー様からのご意見を反映させながら運営を実施し、ゲーム内イベントも順調に推移しております。多くの期待をいただいているメインストーリーについても、全編キャラクターボイスを収録し、最高の品質でお届けすべく、準備を進めております。『スタンドマイヒーローズ』や『魔法使いの約束』等の運営中のゲームにつきましては、引き続き、ユーザー様ファーストの視点に立ち返り、IPとしての信用獲得に注力してまいりました。『魔法使いの約束』は台湾のiSWEETY社と提携し中文版のリリースの準備を進めたほか、『オンエア!』については、2024年7月26日に『オンエア! for Nintendo Switch』を発売しました。引き続き、ユーザー様にとって魅力のある運営を実施しながら、舞台やキャストイベント等のリアルイベントやメディア、グッズ等を絡めつつ、ゲームだけでなくIPとしての成長を目指してまいります。また、同時に新たなIPの創出・新たなゲームの開発を進行し、安定成長のための準備をすすめてまいります。

メディア事業においては、各タイトルでグッズの販売が好調に推移したほか、リアルイベントの開催や舞台、「coly cafe!池袋PARCO店」での期間限定カフェの開催等ユーザー様とのタッチポイントを創出し、多方面から当社作品に触れる機会を提供し続けました。また、『魔法使いの約束』を2025年1月にTVアニメ化することを発表し、大きな反響をいただきました。以上の結果、メディア事業の売上高は前年同期を上回りました。

売上高につきましては、『ブレイクマイケース』のリリースによりモバイルゲーム事業の売上高が大幅に伸長したこと、メディア事業が好調に推移したことにより、前年同期比で増加しました。売上高の増加に伴い、売上総利益についても前年同期比で増加しました。販売費及び一般管理費につきましては、『ブレイクマイケース』リリース前後で広告宣伝費を大きく投入したこと、大手エンターテインメント企業様との協業案件の費用が先行したことにより前年同期比で増加いたしました。

その結果、当中間会計期間の業績につきましては、売上高2,736,768千円(前年同期比34.4%増)、営業損失670,073千円(前年同期は営業損失685,717千円)、経常損失661,477千円(前年同期は経常損失684,299千円)、中間純損失687,322千円(前年同期は中間純損失685,933千円)となりました。

なお、当社はコンテンツ事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載しておりません。

(注) 出典：株式会社角川アスキー総合研究所「ファミ通モバイルゲーム白書2024」

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 財政状態の状況

##### (資産の部)

当中間会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて693,228千円減少し、5,836,297千円となりました。これは主に現金及び預金1,573,924千円が減少した一方で投資有価証券533,119千円が増加したことによるものです。

(負債の部)

当中間会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて28,884千円減少し、733,523千円となりました。これは主に買掛金84,328千円が減少した一方で契約負債39,321千円が増加したことによるものです。

(純資産の部)

当中間会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて664,343千円減少し、5,102,774千円となりました。これは主に中間純損失を687,322千円計上したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末と比べ1,573,924千円減少し、3,512,143千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、963,096千円となりました。これは主に、税引前中間純損失682,028千円や売上債権の増加176,639千円などがあったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、610,827千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出500,000千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金はありませんでした。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年1月期については、5月にリリースした『ブレイクマイケース』が好調に推移していること、また運営中の『スタンドマイヒーローズ』及び『魔法使いの約束』についてもゲーム・メディア双方でIPとしての成長を目指すことで堅調に推移していることから、売上高については当社の過去最高売上である65億円を見込んでおります。

費用面では、2026年1月期リリース予定の大手エンターテインメント企業様との協業案件の費用が先行していることや、一時的に『ブレイクマイケース』の広告費用を大きく投入していることが利益を圧迫しております。加えて、プロトタイプ開発を進行しているゲーム2タイトル(2026年1月期リリース目標)や、その他企画中のタイトルが複数進行しており、それらの進捗状況によっては開発費用が大幅に変動することが見込まれます。また、『ブレイクマイケース』につきましては、効果を見ながらマーケティングの強化や施策の追加を実施する予定であり、費用の変動が見込まれます。

中長期的には、IP数の増加及び事業領域の拡大が当社の成長につながると考えており、末永くユーザー様に寄り添うことのできるオリジナルIPを育て上げ、ゲームやメディアに加えて新たなEX体験(注)をユーザー様に提供していきたいと考えております。現在はそれらのIPを多く創出・育成する時期と認識しており、機動的な投資判断が必要となることが想定されるため、利益予測に関しては非開示とさせていただきます。

以上により、2025年1月期の業績予想につきましては、売上高65億円(前期比28.3%増)、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は非開示とします。

(注) EX体験とは

当社の造語で「Entertainment Transformation」または「Emotion Transformation」の略であり、あらゆる産業において「感情」を揺さぶられるような体験の提供が求められる状態を想定しています。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年1月31日)	当中間会計期間 (2024年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,086,068	3,512,143
売掛金	501,940	678,579
商品	86,869	104,555
短期貸付金	—	3,991
その他	146,873	130,746
流動資産合計	5,821,751	4,430,016
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	22,026	20,745
工具、器具及び備品(純額)	8,608	13,308
建設仮勘定	1,045	—
有形固定資産合計	31,681	34,053
無形固定資産		
ソフトウェア	4,112	6,538
ソフトウェア仮勘定	—	20,537
無形固定資産合計	4,112	27,076
投資その他の資産		
投資有価証券	438,476	971,595
敷金	155,771	155,335
差入保証金	—	70,000
長期貸付金	—	5,909
貸倒引当金	—	△5,909
その他	77,734	148,220
投資その他の資産合計	671,981	1,345,151
固定資産合計	707,774	1,406,281
資産合計	6,529,526	5,836,297

(単位:千円)

	前事業年度 (2024年1月31日)	当中間会計期間 (2024年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	214,096	129,768
未払法人税等	14,943	16,233
契約負債	212,406	251,728
賞与引当金	19,037	19,036
その他	301,922	306,615
流動負債合計	762,407	723,381
固定負債		
繰延税金負債	—	10,141
固定負債合計	—	10,141
負債合計	762,407	733,523
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,910,309	1,910,309
資本剰余金	1,905,309	1,905,309
利益剰余金	1,951,703	1,264,380
自己株式	△203	△203
株主資本合計	5,767,118	5,079,796
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	22,978
評価・換算差額等合計	—	22,978
純資産合計	5,767,118	5,102,774
負債純資産合計	6,529,526	5,836,297

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
売上高	2,036,662	2,736,768
売上原価	1,484,906	1,780,449
売上総利益	551,755	956,318
販売費及び一般管理費	1,237,472	1,626,392
営業損失(△)	△685,717	△670,073
営業外収益		
受取利息	31	74
法人税等還付加算金	1,331	—
還付消費税等	—	13,742
助成金収入	—	427
その他	89	446
営業外収益合計	1,452	14,690
営業外費用		
貸倒引当金繰入額	—	5,909
為替差損	34	158
その他	1	27
営業外費用合計	35	6,095
経常損失(△)	△684,299	△661,477
特別損失		
固定資産除却損	73	550
関係会社株式評価損	—	20,000
特別損失合計	73	20,550
税引前中間純損失(△)	△684,373	△682,028
法人税等	1,559	5,293
中間純損失(△)	△685,933	△687,322

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△684,373	△682,028
減価償却費	7,643	5,633
敷金償却費	581	436
受取利息及び受取配当金	△31	△74
関係会社株式評価損	—	20,000
固定資産除却損	73	550
売上債権の増減額(△は増加)	84,432	△176,639
商品の増減額(△は増加)	27,271	△17,686
前払費用の増減額(△は増加)	△6,813	1,405
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,213	△84,328
未払金の増減額(△は減少)	△32,898	468
未払費用の増減額(△は減少)	11,507	6,564
契約負債の増減額(△は減少)	26,200	39,321
未払又は未収消費税等の増減額	38,289	8,984
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	5,909
賞与引当金の増減額(△は減少)	△435	△0
出資金の増減額(△は増加)	△80,222	△90,486
その他の資産の増減額(△は増加)	△35,615	5,736
その他の負債の増減額(△は減少)	20,684	47
小計	△637,919	△956,186
利息及び配当金の受取額	31	74
法人税等の支払額	△4	△6,984
法人税等の還付額	217,780	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△420,111	△963,096
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△31,327	△7,487
無形固定資産の取得による支出	—	△23,440
投資有価証券の取得による支出	—	△500,000
貸付けによる支出	—	△10,800
貸付金の回収による収入	—	900
敷金及び保証金の差入による支出	△9,963	△70,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41,290	△610,827
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△461,402	△1,573,924
現金及び現金同等物の期首残高	6,097,511	5,086,068
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,636,109	3,512,143

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社は、コンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。